



TITLE:

京都大学図書館概要 2014(日本語
版_Japanese version)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学図書館概要 2014. 2014: 1-14

ISSUE DATE:

2014-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/193533>

RIGHT:

京都大学 図書館概要

Outline of the Kyoto University Libraries 2014





CONTENTS

図書館機構長挨拶	2
沿 革	3
歴代図書館機構長等	3
京都大学図書館機構の基本理念と目標	4
京都大学図書館機構将来構想	4
図書館機構の構成	5
図書館機構の主な事業	7
主要コレクション	11
統 計 (平成25年度)	14

図書館機構長挨拶

京都大学図書館機構長・附属図書館長

引原 隆 士



1897（明治30）年の創立以来、自由の学風の下、卓越した知の創造と継承を担って来た京都大学において、その教育・研究活動を支えて来た京都大学附属図書館は、大学創立に遅れること2年半後（1899（明治32）年）に創設されました。

附属図書館は、京都大学の教育に関する基本理念である「対話を根幹とした自学自習」を支え、知的財産の蓄積や学術情報の創造を支える根幹となって来ました。一方、新しい部局・教室の設立に伴い、それぞれが独自に図書館・室を設け、部局の教育・研究に不可欠な資料を収集・提供する場を築いて来ました。京都大学の図書館は、これらの集合体として機能を発展させてきました。現在の蔵書数の総数は679万冊に達し、国立国会図書館、東京大学に次いで全国で3番目に位置する図書館となっています。さらには、国宝1点（9冊）、重要文化財41点（172冊および468枚）の貴重資料も所蔵しています。

2004（平成16）年の国立大学法人化に伴い組織や制度が変化し、附属図書館を含め全学の部局図書館・図書室は2005（平成17）年4月に設置された京都大学図書館機構のネットワークの下に配置されることになりました。冊子体としての図書だけでなく、リアルタイムで進展する科学技術の教育・研究活動に無くてはならない電子ジャーナル、データベースを、図書館機構の調整のもと、学術インフラとして購読・利用環境を整えております。百年を越える京都大学の図書館の歴史において、電子化の流れは従来の図書の集積を中心として来た図書館の機能および環境を大きく替えております。しかしながら、電子情報の増加で利用者の足が遠のきがちであった大学図書館は、世界的に学びの場としての機能を見直され、ラーニング・コモンズの開設や、より積極的な教育を指向するアクティブ・ラーニングエリアとしての変革を図っています。今後、京都大学の図書館は、中期目標・計画において方向付けられたエリア連携図書館との機能分担などを検討しつつ、より利用者の視点で、教育・研究を支える運営を行い、施設の整備や環境改善を進める責務を果たして行かねばなりません。世界的規模で進む、教育のオープン化へも積極的に関与していかなければなりません。過去への窓口から未来への窓口としての変革が求められているのが現在の図書館の状況です。

重ねて、大学図書館は大学の学術成果を世界に発信する窓口に変化することが火急の課題となっています。京都大学図書館機構は、これまでも大学発の学術資料をリポジトリとして公開することを積極的に行い、高い評価を受けて参りました。2013（平成25）年4月に文部科学省は学位規則を改定し、全ての博士學位論文の電子公開が義務化しました。これは、公的資金で支援された研究のオープンソース化により、著者の権利を守るとともに人類の資源ともいえる研究成果を特定商業活動の独占から守るための改革につながります。このような大学の知の発信活動を積極的に支えて行くことが、図書館機構の重要な活動と考えています。附属図書館を中心とする図書館機構は、時代の変化に応じてそのサービス機能の重点を見直しながら、京都大学にふさわしい大学図書館・ネットワークの構築に向けた努力を続けて行きたいと存じます。皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

沿革

明治	30(1897)年	6月	京都帝国大学創立、附属図書館設置
	32(1899)年	12月	閲覧室開室（11日。この日を附属図書館創立記念日とする。）
昭和	41(1908)年	12月	「附属図書館商議会規程」制定
	22(1947)年	9月	京都大学附属図書館と改称
	23(1948)年	2月	附属図書館（第二代）竣工
	36(1961)年	3月	「附属図書館60年史」刊行
	39(1964)年	9月	館報『静脩』創刊
	58(1983)年	10月	附属図書館（第三代：現行）竣工
	59(1984)年	4月	閲覧システム導入（業務のコンピュータ化開始）
	60(1985)年	1月	バックナンバーセンター（BNC）開設
		4月	調査研究室設置
		6月	NACSIS-CAT（目録システム）サービスに参加
平成	62(1987)年	6月	附属図書館が理工系外国雑誌センター館に指定
	2(1990)年	10月	OPAC運用開始
	4(1992)年	4月	NACSIS-ILLサービスに参加
	8(1996)年	4月	研究開発室発足（調査研究室を改組）
		6月	「今昔物語集 鈴鹿本」国宝に指定
	10(1998)年	1月	電子図書館システム運用開始
		4月	全学共通科目「情報探索入門」（提供部局：附属図書館）開始（以後、毎年開催）
	11(1999)年	11月	附属図書館創立百周年記念式典
	12(2000)年	4月	附属図書館宇治分館発足
	16(2004)年	4月	京都大学図書館協議会発足
			（「附属図書館商議会」を廃し、「図書館協議会」と「附属図書館運営委員会」に機能分割）
	17(2005)年	3月	「京都大学における全学の図書館機能に関する規程」の制定
		4月	京都大学図書館機構発足
	18(2006)年	5月	学内デリバリー・サービス運用開始（2007年7月から専用便へ移行）
		6月	学術情報リポジトリ試験公開（10月から正式公開）
	19(2007)年	3月	電子ジャーナル・データベース認証システム公開テスト開始（4月から本運用）
			「京都大学図書館機構の基本理念と目標」制定
	20(2008)年	3月	「京都大学図書館機構の将来構想案」発行
		4月	電子ジャーナル経費の共通経費化実施
	21(2009)年	1月	研究開発室に専任准教授配置
		6月	キャンパス間返送サービス開始
		12月	「京都大学図書館機構将来構想」策定
	23(2011)年	10月	「京都大学図書館機構規程」の制定（「京都大学における全学の図書館機構に関する規程」の改正）
	25(2013)年	10月	全学共通科目「情報探索入門」を「学術情報リテラシー入門：図書館とWeb情報の活用」に 科目名変更（提供部局：附属図書館）
			文献取り寄せサービスEDDSサービス施行開始（4月から本運用）
	26(2014)年	4月	附属図書館にラーニング・コモンズ等を設置

歴代図書館機構長等

●図書館機構長（附属図書館長を兼ねる）

	氏 名	就 任 ～ 退 任
初 代	大西有三（工）	平成17年 4月 1日 ～ 平成20年 9月30日
第2代	大西有三（事務取扱）	平成20年10月 1日 ～ 平成20年10月31日
第3代	藤井譲治（文）	平成20年11月 1日 ～ 平成23年 3月31日
第4代	林 信夫（法）	平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 9月30日
	引原隆士（工）	平成24年10月 1日 ～

●図書館機構副機構長

	氏 名	就 任 ～ 退 任
初 代	森棟公夫（経）	平成17年 6月 1日 ～ 平成18年 3月31日
第2代	岡田知弘（経）	平成18年 4月 1日 ～ 平成20年 9月30日
第3代	岡田知弘（経）	平成20年12月16日 ～ 平成23年 3月31日
第4代	引原隆士（工）	平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 9月30日
第5代	寺田浩明（法）	平成24年10月 1日 ～ 平成26年 9月30日
第6代	藤井秀樹（経）	平成26年10月 1日 ～



京都大学図書館機構の基本理念と目標

京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。

そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。

- 1** 京都大学図書館機構は、全学の図書館機能を十全に発揮して教育・研究を支援するために、学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。
- 2** 学術情報基盤としてのコレクションおよび情報サービス体制を構築するために、学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する。
- 3** 京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。
- 4** 京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する。
- 5** 学術情報活用のために質の高い利用者支援システムを構築する。
- 6** 図書館利用者が学術情報を有効かつ快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。
- 7** 京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。
- 8** 国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、社会と地域に貢献する。

京都大学図書館機構将来構想

将来構想は、機構の基本理念と目標に則り、おおよそ10年後の京都大学の図書館のあり方を展望し、事業目標を明らかにすることを目的に、2006年8月から検討を始め、2009年12月18日に図書館協議会において承認されました。

■ 4つの基本目標

1. 全学図書館ネットワークの整備を図る
2. 図書系職員の力量の向上を図り、連携体制を強化する
3. 図書財源を安定的に確保し、系統的なコレクションを構築する
4. 図書館施設を量的・質的に整備する

■ 今後10年間の事業目標

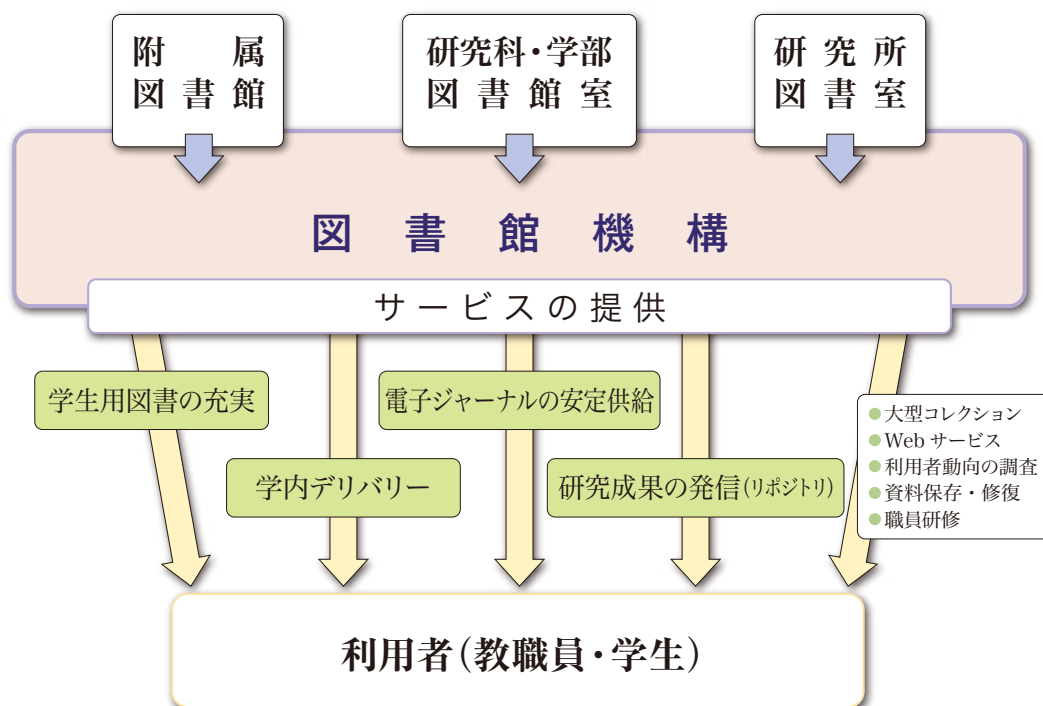
1. 学術情報資源の整備：予算確保と蔵書構築
2. 図書館サービスの充実：全学図書館ネットワークの整備
3. 知的成果の発信：学術情報リポジトリの運営
4. 知的資産の保存・管理：電子図書館の運用と保存図書館の整備
5. 利用者の支援：システムの構築とリテラシー教育
6. 人的資源の整備：図書系職員の養成と連携強化
7. 組織力の強化：図書館機構の機能充実と相互協力
8. 対外活動の推進：社会貢献と他機関との交流



図書館機構の構成

京都大学には、附属図書館をはじめとして約50の図書館・室があり、それぞれの図書館・室が分野に合わせた図書や雑誌を収集・整理し、快適な学習環境を備えています。

京都大学図書館機構は、個々の図書館・室では解決を図れない問題や、複数の部局図書館・室間の調整が必要な課題を解決するための総合的・合理的な全学協調体制として、平成17年4月に発足しました。



吉田キャンパス

本部構内

- 24 附属図書館
- 29 文学研究科図書館
- 23 文・学術雑誌閲覧室
- 21 教育学研究科・教育学部図書室
- 19 法学部図書室
- 20 経済学研究科・経済学部図書室
- 27 経・経済資料センター
- 36 工学研究科図書掛
- 32 工・地球工学科図書室
- 35 工・吉田建築系図書室
- 38 工・吉田物理系図書室
- 37 工・電気系図書室（吉田）
- 33 工・工業化学科図書室
- 28 人文科学研究科図書室
- 34 エネルギー科学研究科図書室
- 30 情報学研究科図書室
- 31 地球環境学図書室
- 26 環境科学センター図書資料室
- 22 経済研究所図書室
- 25 アジア・アフリカ地域研究研究科
アジア専攻図書室

北部構内

- 9 理学部中央図書室
- 7 理・数学教室図書室
- 11 理・物理学教室図書室
- 6 理・宇宙物理学教室図書室
- 13 理・地球惑星科学専攻図書室
- 8 理・化学図書室
- 10 理・生物科学図書室
- 12 農学研究科・農学部図書室
- 15 農・生物資源経済学専攻図書室
- 18 東アジア人文情報学研究センター図書室
- 16 基礎物理学研究所図書室
- 17 数理解析研究所図書室
- 14 フィールド科学教育研究センター
森林系図書室

吉田南構内

- 39 吉田南総合図書館
- 医学部・薬学部・病院構内**
- 40 医学図書室
- 47 医・人間健康科学系図書室
（医学図書館分室）
- 46 薬学研究科・薬学部図書室
- 45 再生医科学研究科図書室
- 43 ウイルス研究所図書室

- 44 アジア・アフリカ地域研究研究科
アフリカ専攻図書室
- 41 東南アジア研究所図書室
- 42 地域研究統合情報センター図書室

桂キャンパス

- 2 工・地球系図書室
- 1 工・桂建築系図書室
- 3 工・桂物理系図書室
- 4 工・電気系図書室（桂）
- 5 工・化学系図書室

宇治キャンパス

- 48 附属図書館宇治分館

その他のキャンパス

- ・ 原子炉実験所図書室
- ・ 霊長類研究所図書室
- ・ 生態学研究センター図書室
- ・ フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所図書室



◆ 図書館機構の主な事業

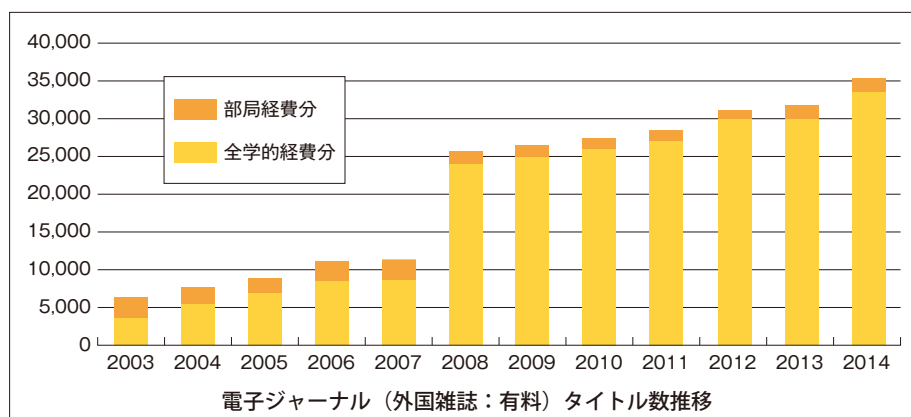
コレクションの構築

■ 電子ジャーナルの安定供給

電子ジャーナルは、冊子体の学術雑誌に代り、今や研究のライフラインとして必要不可欠な情報源になっています。全学で利用できる電子ジャーナル（外国雑誌）は、2014年度現在、有料のもので約35,000タイトルに上っています。無料公開のオープンアクセスジャーナルを含

めて、京都大学で利用可能な電子ジャーナル全点リストをホームページに掲載し、有効な活用を図っています。

電子ジャーナルに対する需要は今後も増大することが見込まれますが、購読料は年々値上がりしており、そのために必要な経費の確保が課題となっています。図書館機構では他大学の図書館と協力しつつ状況改善に努力しています。



■ 大型コレクションの整備

大型コレクションの整備は、部局単独で購入することが困難で、かつ学内外の共同利用にふさわしい資料を収集することを目的に、図書館機構が各部局に購入希望調

査をし、基盤強化経費（全学機構運営基盤経費）の配分を受けて行っている事業です。

本事業は、2002年度まで文部科学省によって行われていたものを、本学独自の事業として継続しているものです。

● 2013年度購入資料

「中世から19世紀までのヒューマンな刑事法に関するドイツその他の国の刑事法関連資料（ハンス・ハイブリヒ・イエシエックコレクション）」（法学部図書室所蔵）





利用者支援

■全学共通科目「学術情報リテラシー入門：図書館とWeb情報の活用」

図書館機構が学術情報リテラシー教育の一環として提供する正規の授業科目です。1998年に当時の長尾眞総長と附属図書館の発案により「情報探索入門」として開講されて以来、履修した学生からの高い評価を受けて、継続して実施してきました。

図書館機構長による講義に始まり、情報学研究科、教育学研究科、薬学研究科、附属図書館研究開発室といっ

た、所属や専門分野の異なる教員がリレー形式で講義を担当します。パソコンによる検索や、実際に図書館資料を利用する演習も組み合わせた構成となっており、担当教員との連携の下、若手を中心とする図書館職員が演習問題の作成や実習のサポートをしていることも大きな特徴です。

学生の情報活用能力がますます求められている中、情報環境の変化や大学教育におけるニーズに内容を対応させつつ、授業を提供しています。

■全学体制での利用者支援

平成23年度に「図書館機構による学術情報リテラシー教育支援の方針」が定められました。この方針に基づいて全学的なリテラシー教育支援を行うため、各図書館・室の協力連携体制を整備しているところです。

新入生向けにはオリエンテーションや利用ガイダンス、図書館ツアー等を行っており、さらに進んだ内容としては、KULINEや各種データベースの使い方、文献

収集法などの講習会を行っています。また、教員からの依頼により、授業の時間を使って図書館についての講習会を行うなど、必修科目の1コマを担当している学部・大学院もあります。

京都大学で契約・購入しているデータベースの講習会も開催しており、複数のキャンパスでの同時開催、附属図書館と関係する部局図書館との共同開催など、分野によって関係するキャンパス・学部と連携して開催しているのが特徴です。

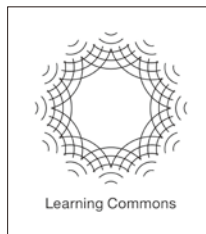
■学習サポートデスク：多様化する学生への支援

2013年10月に、附属図書館内に学習サポートデスクを開設し、日本語を母国語としない留学生や、その他多様化する学生のニーズに対し、図書館が学習支援を行っています。

スタッフは留学生を含む京都大学の大学院生で、日本語・英語に加え他の言語でも対応しています。留学生には英語等で図書や論文の探し方を説明して、円滑な学習・研究活動を手助けし、他には英語での図書館ツアーを行うなどして、書庫を含めた図書館の使い方全般を案内しています。また日本人学生にも、レポートやプレゼンテーション資料に関してアドバイスを行うなど、身近な先輩として相談に乗っています。2014年4月25日にラー

ニング・コモンズがオープンしてからは、ラーニング・コモンズ内に移設しています。

なお、ラーニング・コモンズは、これまでの図書館には無かった「対話」に主眼がおかれた施設です。学生のグループでの議論や意見交換の場として活発に利用されており、主体的・能動的な学習を促すなど、多様な学習の場となっています。大学における教育支援について、図書館が新たな役割を果たしていきます。



ラーニング・コモンズ



留学生向け図書館利用ガイダンス



吉田南総合図書館ウォークラリー



学習サポートデスク

知的成果の蓄積・発信

■京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」

京都大学図書館機構では、京都大学の研究・教育成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文、科研費報告書など）を社会に発信する「京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）」を構築し、2006年からインターネット上で公開しています。

本事業を通じて、図書館機構は本学の中期目標・中期計画にある「研究活動の成果を広く社会に還元する」や「学術情報の公開を通じて、社会に対する説明責任を果す」といった目標・計画を支援するとともに、本学の研究活動や研究者を広く社会にアピールしています。

2013年度からは、文部科学省「学位規則の一部を改正する省令」（2013年3月）を受け、博士学位論文の全文データをインターネット公表することが原則となり、これま

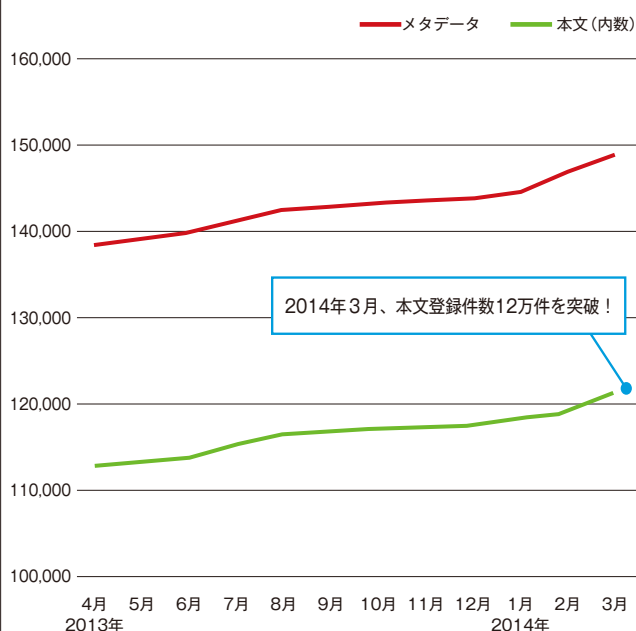
で以上に多くのデータをKURENAIでご覧いただけるようになりました。

本文登録件数も、2014年3月に12万件を突破しました。

京都大学学術情報リポジトリでは、今後も多様な研究分野の論文等を積極的に収集・発信し、本学の研究成果により一層アクセスしやすくなるように努めてまいります。



京都大学学術情報リポジトリKURENAI登録件数
(2013年度)



■貴重資料の電子化と公開

京都大学図書館機構では、学術・文化の発展に貢献するため、貴重な古典籍・古文書をはじめとする学術資料の電子化とインターネット上での公開に取り組んでいます。国宝『今昔物語集』や重要文化財40点をはじめ、これまでに電子化した資料は約4,000点に及び、国内でも有数の規模を誇ります。

本事業は毎年継続的に実施しており、2013年度は、清家文庫などを中心に、41点を電子化・公開しました。

●主な電子化・公開資料

国 宝：今昔物語集（鈴鹿本）

重要文化財：兵範記など40点

貴重書：國女歌舞伎絵詞 天正遣欧使節肖像画 など



国宝「今昔物語集」



「三十六歌仙像」



貴重書の修復

京都大学では、国指定の国宝・重要文化財をはじめ多くの貴重な古典籍・古文書等を所蔵しています。これらの中には、長い保存年月と利用により、虫損や劣化が著しい資料も少なくありません。こうした傷みの激しい資料について緊急性の高いものから順に、教育・研究資料

として活用に耐えうる状態にすることを目的に、計画的に修復事業を行っています。

2013年度は「貴重資料修復計画」第1期の3年度目として、以下の資料の修復を行いました。また、修復した資料を広く学内外に公開する展示会を開催しました。

●文学研究科

「さよひめ」1点3冊

●法学研究科

“Compilatio decretaliū gregori IX” 他 2点2冊

●経済学研究科

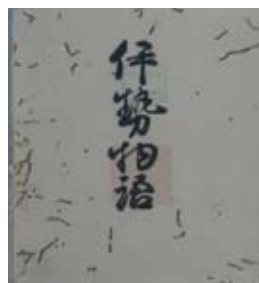
“Von Kauffshandlung und Wucher” 他 4点6冊

●人文科学研究所

「縁生初勝分法本經」他 9点13冊

●附属図書館

「儀礼図」他 2点8冊



修復された資料

学内デリバリー・サービスとキャンパス間返送サービス

「学内デリバリー・サービス」は、離れたキャンパスから図書や文献複写物を取寄せることができるサービスです。(文献複写物の取寄せは有料)

2007年7月から運用開始されたこのサービスにより、

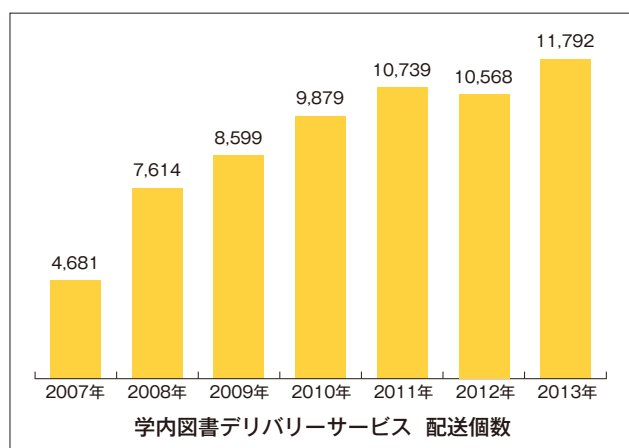
①本部地区、桂地区、宇治地区の3地区を結ぶ配送業者によるルート便(図書専用便)

②それ以外の遠隔地間を直接結ぶ直送便(宅配便)の2つの組み合わせで学内の図書館・室、施設がほぼ網羅され、従来の学内便(事務室間文書配達便)では配達できなかった地区も配送エリアに含まれました。

このことにより、資料をより安全・確実に最寄りの図

書館室まで取寄せることができるようになりました。2013年10月からは、公費払いに限定したEDDS(Electronic Document Delivery Service)を開始し、学内の研究室等のパソコンから文献複写物の電子ファイルにアクセスできるようになりました。

「キャンパス間返送サービス」は、利用者が離れたキャンパスで借りた資料を最寄りの図書館・室で返却できるサービスで、学内デリバリー・サービス網を活用して2009年6月から開始しました。これにより学内利用者の利便性はさらに向上しました。



◆ 主要コレクション

京都大学所蔵のおもなコレクションをご紹介します。

I . 附属図書館

■ 国 宝

今昔物語集 鈴鹿本 巻2, 5, 7, 9, 10, 12, 17, 27, 29 計9冊

■ 重要文化財

紙本墨書 万葉集	巻16 (尼崎本) 1帖	平安末鎌倉初期筆写	紙本墨書 範国記	1軸	平範国	長元9年	春秋冬記
紙本墨書 古今集注	巻1～15, 17 (欠巻16, 17末～20) 2帖	藤原教長撰 仁治2年鎌倉中期伝	紙本墨書 知信記	1軸	平知信	天承2年	春記
	二条師忠筆		清原家家学書	34種	紙本墨書		
紙本墨書 兵範記	49軸	兵部卿 平信範 長承元年～承安元年	幼学指南鈔	巻7, 22	2帖	[平安末期]	写

■ 特殊文庫

附属図書館	維新特別資料文庫	吉田松陰の遺墨を中心とし、「奇兵隊日記」や大久保利通自筆「三藩盟約書草案」、平野国臣のこより文字など、幕末から明治維新の勤皇志士達に関係する多数の資料で構成。
	大塚京都図コレクション	大塚隆収集による江戸期から近代に至る京都に関する地図の体系的コレクション470余枚で構成。現存する本邦最古の京都市街地図『都記』(通称『寛永平安町古圖』)を含む。
	河 合 文 庫	793部(2,160冊)の朝鮮文書類と典籍で構成。文学博士河合弘民が朝鮮史の研究に資するために収集した蔵書。
	菊 亭 文 庫	菊亭家家記、特に家業の音楽書を主軸として有職故実に関する文書・記録で構成。西園寺実兼の四男兼季を遠祖とする菊亭家相伝の文書・典籍を収集した蔵書。
	旭 江 文 庫	大賀寿吉旧蔵のダンテに関する原典や新聞、雑誌の断簡3,000冊の集書で構成。
	近 衛 文 庫	漢籍の他、宇津保物語、落窪物語、大鏡等の古写本で構成。陽明文庫の設立時に、近衛家から3,150冊の典籍が本学に寄贈。
	島 田 文 庫	明治時代の仏教学者島田蕃根が島田家伝世の文書記録に、蕃根自身の取書を加えた、図書480点よりなる修験道文献の特異な集成。
	蔵 經 書 院 文 庫・日蔵既刊本・日蔵未刊本	京都蔵経書院の旧蔵本で構成。明治38年4月より大正元年にわたって蔵経書院が刊行した『大日本統蔵経』の底本となった仏典類と真宗関係の仏書。
	新 聞 文 庫	元大阪新聞社記者中神利人旧蔵の、幕末より第二次世界大戦の初期に至る我が国の諸新聞とその類縁資料で構成。
	清 家 文 庫	明経道清原家に伝わった経書ならびに日記・秘伝を中心とした取書で構成。清原家家学書34種は重要文化財指定。うち、孝子伝は本館設立60周年記念事業の一つとして複製し、広く紹介。
	谷 村 文 庫	大正・昭和の実業家谷村一太郎旧蔵の和漢書9,200冊の稀書で構成。新村出博士の縁で本学に寄贈され、『光明皇后願経』、『伝桓武天皇写経』など多彩な資料を含む。
	陶 庵 文 庫	本学創設当時の文部大臣で、本学の設立に尽力した西園寺公望公爵の愛蔵書680部(8,046冊)で構成。
	中井家絵図・書類	京都の宮大工の棟梁中井家の御所、二条城、各寺社の建築関係の図面、古文書、地図など旧蔵資料和書177冊、図面類2,276枚で構成。
	中 院 文 庫	中院通規伯爵の旧蔵書、文書記録を含む典籍1,041冊で構成。通村、通勝の万葉集、古今集等の勅撰和歌集をはじめとし、源氏物語、伊勢物語等自筆の訓注、評釈等の精粹な資料を含む。
	平 松 文 庫	公家西洞院時慶を遠祖とする平松家伝世の3,100余冊の集書。朝廷の儀式典例、日記に貴重なものが多数。兵範記、範国記、知信記の3点は重要文化財指定。他に真名字本平家物語を含む。
	富 士 川 文 庫	明治以前の和漢の医書と江戸中期以後主として幕末期の西洋医学の翻訳書で構成。医学博士、文学博士富士川游が「日本医学史」の編纂のため収集した蔵書。
	宮崎市定コレクション	宮崎市定名誉教授旧蔵の地理書と古地図で構成。1561年刊行のヴェネチア版『プトレミー地図帳』、1550年に木版筆彩された『ミュンスターの新世界図』などを含む。
	イスパニア文庫	イスパニア国最高学術研究会議の配慮により、昭和25年同国政府より寄贈された学術図書1,300余冊で構成。
	ロールズ・シリーズ	英国中世の公文書、記録類の集大成724冊で構成。Rolls Seriesと称されるのは、Master of the Rollsの監修のもとに編纂されたことによる。



Ⅱ. 部局図書館・室

■特殊文庫（重要文化財を含む）

文 学 研究科	池 田 文 庫	京都府与謝郡宮津町の実業家池田孫七氏寄贈の語学・文学・社会学・芸術など広範囲にわたるロシア語文献コレクションである。2,159冊（言語学）。
	額 原 文 庫	本学部教授（国語学国文学）であった額原退蔵博士旧蔵の国文学関係のコレクションである。同教授の専門であった俳書の版本をはじめ、写本も数多い。6,040冊（国文学）。
	桑 原 文 庫	本学部名誉教授（東洋史学）桑原隲蔵博士旧蔵の東洋史関係のコレクションである。博士の専門が東西交渉史であったことから、洋書も多く含まれている。12,457冊（東洋史学）。
	ク ラ ー ク 文 庫	本学部教師（英文学）であったEdward B Clarke氏旧蔵の英文学関係書のコレクションである。5,133冊（英文学）。
	西 田 文 庫	本学部名誉教授（哲学）西田幾多郎博士旧蔵の哲学関係図書のコレクションである。同教授の書き入れ本も多い。1,627冊（哲学）。
教育学 研究科	小 西 文 庫	本学第9代目の総長であった小西重直博士の旧蔵書で、1940年第以前のわが国における教育原理に関する貴重な資料が多い。489冊。
	高 橋 文 庫	高橋俊乗博士の旧蔵書で、江戸時代末期を中心とする教育思想に関する図書をふくみ、教育思想史の研究上欠くことのできない集収である。1,371冊。
法 学 研究科	ハ チ ェ ッ ク 文 庫	ドイツの国法学・行政法学者 Julius Hatschek (1872-1926)の旧蔵書。ワイマール憲法下において活躍し、ドイツとイギリスの比較法の専門家としてイギリス公法の研究においても大きな業績を残したハチェックのコレクションであるため、公法学に関する図書が多く、なかには哲学・史学の図書が含まれている。2,113冊。
	タ ー ナ ー 文 庫	ドイツの民法学者 Friedrich Thaner の旧蔵書。教会法関係の書籍が多く、ドイツ民法典成立以前は、教会法がドイツの家族法の役割を果たしていたため、ドイツ法史研究上学術的価値が極めて高い資料が多数含まれている。2,643冊。
	ト ウ ール 文 庫	ドイツの民法学者 Andreas Von Thur (1864-1925) の旧蔵書。19世紀から20世紀に出版された歴史法学以降の私法関係図書を多く所蔵している。1,933冊。
経済学 研究科	上 野 文 庫	元朝日新聞社主 上野精一氏と元社主 上野淳一氏の寄贈書で、内外の新聞とジャーナリズム・マスコミ関係書の一大コレクション。政治学・経済学・哲学・歴史学に関する貴重な文献も多い。約27,000冊。
	河 上 文 庫	京都大学経済学部教授であった河上肇の旧蔵書を、1969年に学部創立50周年を記念して寄贈を受けたもので、図書の他に、講義ノート、原稿が含まれる。約2,700冊。



宇津保物語



文学研究科額原文庫「弁慶物語」

理 学 研究科	数学教室貴重書 コレクション	16～20世紀の数学関係の洋書（267点）と、江戸時代の和算書、天文学、暦書等（597点）のコレクション。864点。
	理学部中央図書室 貴重書・準貴重書 コレクション	16世紀～20世紀にかけての博物学、地質学、化石学、貝類学等に関する和洋のコレクション。586冊。
工 学 研究科	ジョサイア・コンドル 建築図面 (重要文化財)	明治期に英国より来日して鹿鳴館やニコライ堂など多くの設計に関わり、日本近代建築の父と呼ばれたジョサイア・コンドル博士の建築図面468枚。建築系図書室所蔵。
吉田南 総合図書館	林 文 庫	1939年10月 第三高等学校教授 林森太郎先生より寄贈を受けた国文学関係の和書88点。
	溝 淵 文 庫	1939年7月 第三高等学校教授 溝淵進馬先生より寄贈を受けた教育学・哲学関係の和洋図書1,224点。
アジア・ アフリカ 地域研究 研究科	アイ ユーブ・ コレクション	元テンプル大学教授マフムード・アイユーブ博士の個人蔵書。イスラーム学関連図書コレクションで、アラビア語約1,700冊、ヨーロッパ語約1,000冊からなる。
	モイヌッディーン・ アキール博士所蔵 ウルドゥー語文庫 コレクション	カラチ大元教授モイヌッディーン・アキール博士の旧蔵書で、南アジア・イスラームの歴史・政治・社会・文学・思想・宗教など幅広い書籍を含む。蔵書数2万点を超え、ウルドゥー語コレクションとしては、大英図書館に次いで世界第2の規模。
	京 都 大 学 学 士 山 岳 会 文 庫	京都大学学士山岳会・国際登山探検文献センターの旧蔵書。アジア・アフリカ地域を中心とした学術探検登山に関する幅広い資料が含まれている。約4400冊。
人文科学 研究所	サン＝シモン、 フーリエ文庫	19世紀前半に活躍したフランスの社会主義思想家アンリー・サン＝シモン(1760～1825年)とシャルル・フーリエ(1722～1837年)の著書・パンフレット類・研究書。前者の関係が93部、後者の関係が54部。
	矢 野 文 庫	故京都大学名誉教授矢野仁一博士が1944年「現代支那」研究班の代表者として蒐集した和漢洋書421部、697冊。1958年1月に寄贈された。
	村 本 文 庫	元大阪朝日新聞社員村本英秀氏(後に中田と改姓)より1941年1月に寄贈された漢籍837部、8,484冊。文庫の内容は、中国の伝統的な書籍分類法である四部(経・史・子・集)分類のほぼ全てにわたる。
	中 江 文 庫	中江丑吉氏の旧蔵書で、歿後中江善後委員会より1944年9月に寄贈された、漢籍355部6,037冊、社会科学に関する洋書478部728冊、および、1996年に阪谷芳直氏より寄贈された、手稿等61点、書簡245点から成る。
経 済 研究所	マッケンジー文庫	ライオネル・マッケンジーロチェスター大学名誉教授の蔵書で、数理経済学関係書を主としたコレクション1,495冊。2003年10月に寄贈された。
東南アジア 研究所	チャラット・コレクション	タイ政府関係者Charas Pikul氏の旧蔵書約9,000冊。うち葬式配付本(Nagsue Ngan Sop)と呼ばれる重要人物の葬儀に際して刊行される出版物約4,000冊が含まれており、タイ国外で最大規模のコレクションである。
	フォロンダ・コレクション	フィリピン史学者 故Marcelino Foronda教授の旧蔵書約7,000冊。イロコス地方の歴史・文学・民族誌をはじめ、マルコス政権下の禁書・地下出版物やカトリック各種祈祷書など、フィリピン研究に重要な諸資料が含まれている。
	オカンポ・コレクション	フィリピン歴史学者・作家Ambeth Ocampo氏旧蔵書約1,000冊。19世紀後半から20世紀初頭フィリピン史関連出版物、カトリック各種祈祷書や議会記録等の政府刊行物が含まれている。



ジョサイア・コンドル建築図面
Elevations of Plan B (250 tsubo) (欧風住宅)



理学部中央図書室貴重書・準貴重書コレクション
"Account of voyage of discovery to the west coast of Corea, and the Great Loo-Choo Island" by Basil Hall. 1818



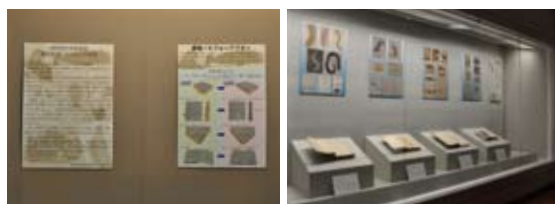
統計 (平成25年度)

部 局 名	蔵 書 冊 数		受入図書 冊 数	受入雑誌 種 数	開館日数	入館者数	貸出総数
	総 計	うち開架図書 冊 数					
附属図書館	910,904	172,543	14,128	1,752	339	898,376	169,777
附属図書館宇治分館	71,111	16,410	1,223	377	240	14,662	2,229
文学研究科	1,097,502	4,500	16,763	3,741	225		71,609
教育学研究科	175,027	144,618	6,074	698	228	16,026	12,616
法学研究科	711,967	24,662	9,580	1,141	267		15,725
経済学研究科	566,262	27,147	12,947	1,072	260	56,203	18,563
理学研究科	247,624	217,074	7,280	1,341	237	68,836	27,408
医学研究科	253,743	154,800	4,424	710	288	70,626	7,036
(医学人間健康科学系)		15,872		182	215		8,827
薬学研究科	34,015	7,983	229	31	238	17,860	1,363
工学研究科	340,025	126,559	3,690	1,084	232	27,054	15,350
農学研究科	264,629	78,872	2,415	1,807	239	71,554	13,336
人間・環境学研究科	652,369	99,278	19,268	940	267	236,456	88,413
エネルギー科学研究科	10,252	5,933	130	70	235	1,585	270
アジア・アフリカ地域研究研究科	132,376	2,588	3,687	213	231	1,385	2,716
情報学研究科	59,983	18,283	858	111	239	12,227	6,321
生命科学研究科	73						
総合生存学館	2,827		83				
地球環境学舎・学舎	8,687	8,639	487	36	226	2,034	1,181
人文科学研究所	601,426	6,986	5,987	1,338	218	5,122	4,464
再生医科学研究所	4,862	4,862		15	240		
基礎物理学研究所	92,013	91,924	1,076	109	240	1,333	2,197
ウイルス研究所	3,648			2	241		41
経済研究所	81,674	109	601	672	222	4,750	1,044
数理解析研究所	98,174	45,550	1,873	484	234		2,021
原子炉実験所	53,481	46,356	536	129	239	1,119	348
霊長類研究所	26,575	26,575	265	92	244		331
東南アジア研究所	186,966	182,618	4,101	614	234	2,098	2,783
生態学研究センター	15,960	15,960	280		221		256
地域研究統合情報センター	52,034		4,151	119	220	567	192
フィールド科学センター	21,493	(森林系)	190	151	233	453	346
		(瀬戸臨海)		260	235		
その他の部局	17,175		2,767				
計	6,794,857	1,546,701	125,093	19,291	7,227	1,510,326	475,630

(注) 附属図書館宇治分館は、化学研究所・エネルギー理工学研究所・生存圏研究所・防災研究所の蔵書数等を含めた数

展示会風景

■理学部貴重書展示



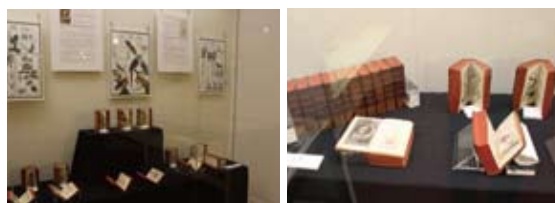
「海を伝える～理学部に薫る19世紀博物学の図書コレクションから～」

■経済学部図書室修復資料展示



「河上肇と河上文庫」

■京都大学図書館機構貴重書公開展示



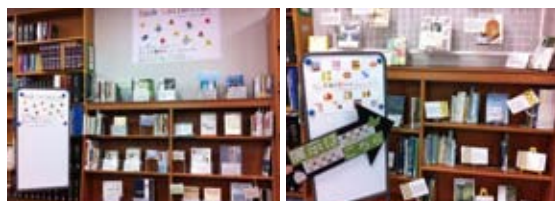
「博物学の世界」

■経済学部図書室資料展示



「教員が選ぶ経済学生にススメたい本」

■農学部図書室展示企画



Vol.3 Book Collection
「オトナの夏休み
—身近な「農学部」体験—」

Vol.4 Book Collection
「農図で農トレ！
—授業関連本を読んで農力アップ！—」



<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

2014 (平成26) 年11月発行
編集・発行：京都大学図書館機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL.075-753-2613 FAX.075-753-2629



適切に管理された森林から
切り出された木材を使用しています